学校番号	3004

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校改訂版「日本史Ａ」（第一学習社）						
副教材等	地歴高等地図（帝国書院）　　「私たちが拓く日本の未来」（総務省　文部科学省）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・前後の事象、状況からそのつながり、因果関係を考えよう。
・物事の形成過程を多面的、多角的に捉える視点を持とう。
・歴史の評価には立場や視点が影響することに気づき、評価に大所高所からの広い視野が必要なことを理解しよう。

２　学習の到達目標

日本の近現代史の展開を、世界史の視点に立って国際環境との関連などから考察することにより、大局的な歴史的思考力を培い、国家の民主的な形成者としての自覚と国際社会で主体的に生きる日本人としての資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的展開に関心を持ち、課題を追求し、社会に向き合って生きる姿勢と責任を持とうとする。	課題の追求に多面的･多角的な視野を持って取り組み、客観的･公正に判断していく。	適切な資料の収集、情報の選択・活用により、社会的・歴史的事象を捉える視点と方法を身につける。	歴史展開の基本となる知識を身につけ、相互の関連性から深い理解へとすすめる。
評価方法	・授業姿勢 ・授業ノートなど	・定期考査 ・授業姿勢 ・授業ノートなど	・定期考査 ・授業姿勢 ・授業ノートなど	・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近現代の日本と世界	第１章 近代国家形成と国際関係の推移 第１節 近代への胎動 第２節 開国と幕末の動乱 第３節 近代国家の形成 第４節 国際関係の推移と近代産業の発展	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:開国から明治新国家の形成について感心を持ち、意欲的に追求しようとする。 b:近代国家形成への過程を国際関係などを踏まえながら考察する。 c:必要な諸資料を読み取り、理解する。 d:近代国家形勢の過程を理解する。	授業姿勢 レポート 授業姿勢 発問 定期考査 ノート・プリント提出
2学期		第２章 両大戦をめぐる国際情勢 第１節 第一次世界大戦と日本 第２節 第二次世界大戦と日本	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:　２つの大戦がおこった理由や影響について関心を高め、意欲的に追求しようとする。 b:両大戦を国際情勢や国内の諸課題など多角的な視点からとらえようとする。 c:必要な諸資料を読み取り、理解する。 d:　二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格についての基本的な事柄を、両大戦の影響と平和の意義などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	授業姿勢 レポート 授業姿勢 発問 定期考査 ノート・プリント提出
3学期		第３章 現代日本と世界 第１節 日本の再出発 第２節 独立後の政治と経済発展 第３節 現代日本と世界	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:戦後の政治･経済･文化などに関心を持ち、意欲的に追求しようとする。 b:戦後の政治･経済などを国際関係や現代とのつながりのなかで考察する。 c:必要な諸資料を読み取り、理解する。 d:戦後から現代に関する知識を身につけ、課題を見出す。	授業姿勢 レポート 授業姿勢 発問 定期考査 ノート・プリント提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。